

平成 30 年度 第 2 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 31 年 2 月 5 日(火)	会場
開会時刻	午後 3 時 30 分	金井コミュニティセンター 2 階 大会議室
閉会時刻	午後 5 時 00 分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 教育長	渡邊 尚人
	教育委員会 教育長職務代理者	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員	仲川 正道
	教育委員会 委員	中村 友子
	教育委員会 委員	信田 恵子
説明のため出席した職員		
総務部総務課 課長 中川 宏 課長補佐 左京 理恵子	学校教育課 課長 山田 裕之 管理主事 濱田 晴明 課長補佐 伊藤 賢治 総務係長 飯田 誠	
企画財政部企画課 課長 岩崎 洋昭	社会教育課 課長 渡邊 竜五	
傍聴人数	3 人	

会議に付議した議題

- ( 1 ) 平成 30 年度の成果と課題の中間報告について
- ( 2 ) 部活動のあり方(教職員の働き方改革)について
- ( 3 ) その他

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山田学校教育課長</li> </ul>	<p>本総合教育会議は、午後 3 時 30 分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。本日はご多用の中、平成 30 年度第 2 回佐渡市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。本日の議題は、1、平成 30 年度の成果と課題の中間報告について、2、部活動のあり方（教職員の働き方改革）についての 2 点です。1 につきましては、昨年度もこの時期に実施しました。今年度ここまでの教育行政の成果と課題を確認しながら、来年度の方向性について意見交換していただき、この後作成する平成 31 年度の教育行政方針や各課の重点施策に反映させていきたいと考えています。</li> <li>・ 2 につきましては、前回 10 月に行いました第 1 回会議で時間の関係でできなかったものです。この際不登校の状況と学力に関するテーマも今回に回すということでしたが、これにつきましては本日の議題の 1 の中に含まれておりますので、その中で実施します。</li> <li>・ なお、本会議は公開で行いますので、よろしく申し上げます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【配付資料の確認をした】</li> <li>・ 議事の進行につきましては、佐渡市総合教育会議運営要綱第 3 条第 2 項の規定により三浦市長にお願いします。では、市長、よろしく申し上げます。</li> <li>・ それでは、よろしく申し上げます。</li> <li>・ 次第の方、進めさせていただきます。</li> <li>・ まず、1 番目の議題、平成 30 年度の成果と課題の中間報告について、まず学校教育課、事務局の方から説明をお願いします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濱田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、よろしく申し上げます。学校教育の重点の成果と課題について、学校教育課に関するものを説明させていただきます。</li> <li>・ 資料、カラー刷りがありますが、それを使って説明する前に来年度の目標値について説明させていただきます。次年度はこの佐渡市教育振興基本計画に設定された目標の最終確認年度でありますので、これから説明する資料の次年度の目標値はこの佐渡市教育振興基本計画の 31 年度の目標の数値となっています。</li> <li>・ それでは、資料に入ります。時間がないので、重要な部分のみ説明します。1 ページ目、基本目標 1、施策 1、学力についてです。表の真ん中をご覧ください。全国を上回ったのは小学校国語 A です。本日記りました別紙、ワンペーパーものですが、そこに 26 年度からの結果を追加しました。小学校 6 年、ご覧のとおり全国平均並みで来ています。中学校でございますが、特に 26 年度、27 年度、28 年度の 3 カ年は全国平均より大きく離れていました。しかし、29 年度には大きく向上し、今年度は全国平均には達しませんでした。昨年度の成績を維持しているところでございます。</li> <li>・ それでは、またカラー刷りの資料に戻りますが、毎月行われています新潟県のウェブ診断問題というのがありますが、それにつきましてはほぼ平均から平均を上回っています。この県のウェブ診断問題の結果と全国学力・学習状況調査の結果がつながるよう国や県などの結果をそれぞれ分析し、日ご</li> </ul>

るの授業の改善を図っていきます。

- ・ 次に2ページ、3ページをご覧ください。基本目標2になります。キャリア教育について説明させていただきます。施策6に関しまして、  
とありますが、全て目標値を達成しました。
- ・ 3ページの施策7の、ICTの部分ですが、昨年度より数値が大きく落ちています。今年度実際値は5%ということになりました。それはなぜかといいますと、評価の仕方を変更したからでございます。評価の対象を昨年度までは教員個人としていました。今年度からは学校全体ということにしました。理由は、昨年度までは学校へICT機器の整備はしていなかったため、個人を対象として個人で研修をしているかどうかを調べ、その結果、29年度ですと30.5%ということになりました。今年度は金井小学校、内海府中学校へICTを整備していただきましたので、学校全体で研修をしているかどうかというのを調査した結果、金井小学校、内海府小学校がやっているということでその結果5%となりました。来年度はICTが整備される学校が19校になりますので、そこで研修を実施するよう支援していきますので、最終目標である50%に達成する予定です。
- ・ 続きまして、基本目標3です。施策9、のいじめの解消です。昨年度より解消率が上がりましたが、2学期現在小学校で2校、今解決に向けて取組中でございます。いじめ解決に向けて、各学校で行われているケース会議に教育委員会から教育指導主事も参加し、支援を今後も続けていきます。
- ・ の不登校の発生率です。29年度までのここ数年、新しい不登校が増加してきましたが、今年度はそこに書いてあるように30年は19と下がりました。下がりましたというよりも減りました。不登校が多い学校を支援校に定め、担当教育指導主事が随時学校に出向き、支援をした結果と考えています。今後、一旦不登校になると、再び登校することが難しいというケースが多いですので、子ども若者センターや児童相談所など関係機関に早目に連絡し、強化を進めてまいります。
- ・ 4ページになります。基本目標4でございます。施策10、大学や研究機関との連携になりますが、大学が島内がないという中で佐渡市から予算をつけまして、先進校視察、外部講師招聘事業、大学の附属学校に視察に行ったり、大学の先生を学校へ招聘したりしています。よって、この事業を活用している学校に市内全体、あるいは少なくとも隣接校の学校などに呼びかけて合同で研修会を実施するよう支援していきます。また、ICTのシステムを活用して遠隔操作で大学や県教育委員会と連携し、離れた場所でも研修ができるようにしていくということも支援していきます。
- ・ 最後になります。基本目標6です。5ページにコミュニティースクールのことが書いてありますが、佐渡市教育振興計画作成時の28年度にはコミュニティースクールの31年度の設置目標というのは市内で1カ校だけという目標値でしたが、30年度現在で4校になりました。これを来年度は15校を目指していきます。担当の教育指導主事が今後も各学校へ積極的に行って

<p>・三浦市長</p> <p>・渡辺社会教育課長</p>	<p>支援したり、あるいは地域へ丁寧な説明を繰り返していく予定でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。</li> <li>・ 次に、引き続きまして社会教育の方からも説明よろしく申し上げます。</li> <li>・ 社会教育課の渡辺でございます。1枚ものでご説明いたします。学校教育課と様式が違うものにつきましては、具体的な基本目標で社会教育課の場合ですと、言葉では非常にわかりにくいということで、事務事業ということで評価させていただいております。その関係で事務事業評価ということで報告をさせていただいているものでございます。</li> <li>・ 1つは、生涯学習事業です。市民大学講座、29年度512、30年度500ということですが、これは実績が出ておりました、228が今実績になります。大幅に減っているのは、ちょっと今年いろいろな日程の都合で講座の回数自体を3回ほど減らしたと、うち1回が台風によって中止になったことというのが大きな理由です。来年は戻すように考えておりますので、31年度目標に向かって取り組んでまいります。</li> <li>・ 2つ目の子育て、親育ち学級です。これにつきましては、実績187ということで、6回行われております。実績としてその数が出ておりますが、これは佐和田地区ですが、やはり核家族化も含めて、親御さんのご相談をする場所というところでは効果が高いものと考えております。子ども若者課と連携して、今後の全島での考えも含めて考えてまいりたいというふうに思います。</li> <li>・ 2つ目がスポーツ推進事業です。これにつきまして、ちょっと数字的なものをご説明いたします。29年度3,438ということで、目標値とかけ離れておりますが、実はこれ間違いではないのですが、目標値が佐渡市の主催するスポーツ教室の開催事業ということですが、3,438はスポーツ少年団等、主催が違うものの数もカウントしたということでございます。もともとの分母が違うということです。その分母をとりますと、29年度のスポーツ教室等開催事業、佐渡市主催のものについては1,749が実績ですので、おおむね2,000に向けて今取り組んでいるところです。これにつきましては今現在も検討中です。実績は出ておりません。</li> <li>・ スポーツ指導者講習会ということですが、これはさまざまあるジュニアスポーツクラブ全体で80ぐらいございますが、これの指導者を統一的な指導ができるような形で学ぶ場をつくりましょうということで取り組んでおります。数は毎週60ほどで、実質的に動いているところが参加されておりますので、本年も60ぐらいを見込んでいるところです。</li> <li>・ ジオパーク推進事業です。これにつきましては、いろいろな条件つき再認定の部分もございます。その部分の大きな項目の一つである市民との連携という部分がこの2つの項目になっております。これにつきましては、おおむね1つ目の市民等の普及啓発は、講座、ガイド等をやっております。おおむね目標値に達するものと見込んでおります。</li> </ul>
-------------------------------	--

- ・ 2つ目の講演会・シンポジウムにつきましては、小中学校からの出前授業も行っておりますし、今漁協とか農協等とも連携をして、多様な方々等知ってもらおうということで話をしているところです。それにつきましても今年現在取組を進めております。そういう部分で何とか目標を大幅に超えていきたいというふうに考えている状況です。ただ、この講座につきましては、今年整理をかけておりまして、単純にやるのではなく、今、初級、中級、上級というような形で、上級をとった人がどのような活躍をされるのかと、そういうところのイメージも含めて講座の方を再度検討してほしいということを担当に投げております。来年以降は数ではないということになるとは思いますが、講座の有効的な活用によってジオパークをみんなに知ってもらって、ジオパークを知る人が活躍できると、そういうものをつくっていきたいというのがこの講座等です。
- ・ 裏の方、1つは読書推進事業です。移動図書館運行事業ということで48、4方面に対して毎月1回行っているという状況です。これにつきましても非常に効果が高く、実際の冊数としては4,500冊ほどを年間に貸し出しているという状況です。特に本の少ない学校とか、そういうところで大幅に借りていただけるケースもありますし、保育園の方は読み聞かせという形で行っております。地域の公民館等で貸し出すという場合もございますので、多種、さまざまに貸し出しを取り組んでいるところです。
- ・ ブックスタート事業です。これは4カ月健診時に絵本のプレゼントと読み聞かせをするんですが、これは目標385になっておりますが、今実際に年間300切る状態になっております。通常は4カ月健診ですので、生まれた数の前後になりますので、目標の達成は厳しいと考えております。ただ、これは4カ月健診参加される人ということになりますので、31年目標もこのままになるのか、下方修正が要するのか、31年に4カ月を迎える子というのも来年ですので、これからだんだん出てきますので、いずれにしても下方修正が必要になるものと思っております。
- ・ 図書館相互貸借事業につきましては、これ簡単に言いますと佐渡にないものを県の方から借りてくるという事業です。これは数が増えない方がいいのですが、ただ佐渡市民がさまざまな形で欲しいというものに対しては最大限努力していくということで取り組んでおります。ですから、これは目標というよりも、我々としてはこれを減らすことがもしかして目標になるのかもしれないませんが、全てが網羅できませんので、高い知識を得られるような形で積極的に取り組んでいくということで考えております。
- ・ 博物館、資料館管理運営事業です。これにつきましては、内容につきまして縄文の造形美ということがございますが、縄文の造形美のほか、高橋保先生の版画、宮本常一先生の書類関係とか、そういうものにつきまして総合的な中で約5,000ほどの実績が見込まれているところです。目標値にやや足りませんが、29年度実績よりは伸びていこうと思っておりますので、より一層の博物館の方の活用を図っていきたいと考えております。

<p>・三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯教育事業として、子どもを育てる地域の連携促進事業ということで、これは県の事業を受けております。その中で 30 年度は 27 の学校でコーディネーターを用意して、3 つの学校で放課後子ども教室を実施するということで取り組んでいるところです。31 年は全校を目指して取り組んでおります。これについては今準備しておりますので、確実に達成をするだろうというふうに考えているところです。</li> <li>・ ありがとうございます。</li> <li>・ ここまで学校教育、社会教育の方を説明させていただきましたが、質問、疑問等ありましたらお願いします。それを踏まえてから意見交換に入りたいと思いますので、よろしくお願いします。</li> <li>・ それでは、協議、意見交換の方に入らせていただきます。学校教育課の方から入りますが、基本目標、大項目ごとにやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</li> <li>・ まず、基本目標の 1、学ぶ意欲を高め、確かな学力等を育成する教育の推進について意見交換、協議を始めたいと思います。ご意見があればよろしくお願いします。</li> </ul>
<p>・仲川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、私から意見を述べさせていただきます。</li> <li>・ たしか去年も同じ日、2月5日に総合教育会議の場でこの成果と課題を見ながら学力について話をさせていただきました。そのときのことを思い出しているのですが、学力を向上させるのにかかけ声だけではなくて、具体的な手段をたくさん用意してほしいということが1点。もう一つは、学習時間の調査についてはもう少し回数を増やしてもらえないかということをお願いしました。十分教育委員会事務局の方々には伝わっていると期待しています。</li> <li>・ この全国学力調査については、県のウェブ診断の話が出ていますが、こういう具体策が非常に有効だと私は思っています。だけれども、これ以外について一体どんな施策を打って、どのように効果があったのか、という分析がほとんど聞こえてこない。それから、学習時間調査にしても、去年私の述べたことを取り入れていただいたのか、よくわからないという状況です。ウェブ診断テストというのは、県が行っていることです。県の施策に乗って、佐渡市立学校でもやっていること。では、佐渡市の学校は自分たちの学力向上策をもっているのか。</li> <li>・ 例えば栃木県佐野市では市全体で小学生、中学生の学習時間を推奨時間という形で指導しています。佐野市の方針は、小学生の目標時間は学年掛ける10分プラス30分。例えば5年生だと、5掛ける10分で50分、プラス30分ですから、80分。これを目標時間とする。中学生は全学年で2時間以上。これを市が言っているのです。こういうことをやりながら実績を上げている。5年間の統計を見てきました。2010年度の佐野市の小学校1年生から中学2年生までの1週間当たりの平均時間が載っています。1週間当たりの平均ですので、わかりやすく7で割ってみると、2010年度が59分でした。</li> </ul>

	<p>5年間延び続けて2014年、5年目が76分に上がっている。こういう施策を打ち出して実行した。それに合わせて例えば家庭で学習する内容についてプリントを作って配る。ノーテレビデーを設けて、中学校の定期テストの日程に合わせて、その日は小学生もテレビを見ないようにする。そうやって家庭で指導する。チェックシートをつかって、親と一緒に子どもが記入する。こういう一つ一つの裏づけとなる取組があって、学習時間が延びていく。学習をすればわかってくるわけですから、意欲が湧いてきて成績も伸びてくる。ところが、残念ながら佐渡市では、手応えがない。何年か見せていただいています、手応えがない。何に原因があるのだろうか。教育行政的には、佐渡市教育委員会の中に設置されている総合教育センターを充実させてしっかり分析をする。そして各校の研究主任さんを活用しながら具体的な施策を打ってもらいたいと考えています。最初に意見を出させていただきました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。今の仲川さんのご意見等に対して、学校教育課関連でどうなのか。説明ございますか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濱田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご意見ありがとうございます。例えば具体的な手段ということ、その件でございますが、市では例えば勉強時間についてということで具体的な数値は出していないのですが、各学校でそれぞれ目標値をもつと。また、テレビの時間についても目標値をもつように指導はしています。そして、各学校で目標値を定めて、それについて実際行っているかどうかということについて担当指導主事が毎学期行って、そこで確認をしているところです。各学校でも学校評議委員という形をとりまして、うちの学校ではこのぐらいの勉強時間です、学力このぐらいですということをちゃんと公開し、ご意見いただいているところでございます。ノーテレビの話もありましたが、ノーテレビもここでは、資料では示していませんが、中学校区でやっています。中学校の試験期間に合わせて、特に小学校の方もやりますということで、それについても表をつくってやっているところでございます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習については、モデル校を決めまして、説明不足でしたが、金井中学校がこのような形でやっているということで成果が出ていますので、それを公開し、各学校研究主任も集めて、管理職も集めて、そのような形で大学の先生を招聘して紹介し、広めているところでございます。</li> <li>・ この説明について、意見があればよろしくお願ひします。</li> <li>・ 貴重な情報ありがとうございます。そういうことを堂々と市民にも公開をして、キャンペーンを張っていただくと全体が盛り上がっていい効果が生まれる。あの学校でこういうことをやって成果を上げている。他の学校でもそれを活用していこうと。そうやってムードを高めて、全体で動いていかないと実績値として上がってこない。良いところはぜひ採用して、広めてもらいたい。お願ひします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そこについては同感で、やっぱり見える化ができていないと思いますし、学校単位で目標設定という指示を出しているのはわかりますが、その学校同士、トータルの比較をしっかりと、全ての学校同士が把握できているのかとい</li> </ul>

<p>・ 信田委員</p>	<p>うのを含めて、学校区によってのその状況の数字の違いはやっぱり市民は知る方がいいと思います。その辺のところの見える化をどうするかということが一番大事なかなと思いますし、やっていることの刺激が必要ではないかと思えます。その辺を何とか新年度にやってみてください。お願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他に。1番目の目標値でございますが、1についてはよろしいですか。</li> <li>・ じゃ、すみません。次、基本目標2、キャリア教育の推進についてご意見等ありましたらよろしくお願いします。</li> <li>・ 先回の教育委員会の際に私も少し意見を述べさせていただいたのですが、やはりキャリア教育、実践教育、実際に体験できる教育、学習というのは座学、いわゆる教室の中で、その中だけで行う教育よりも、またより身近に実践ができると思います。だけど、それだけ、体験学習だけがいいというわけでもなく、実際の授業の中にそれをまた生かして、じゃそれを生かすには、またもっと深く調べるにはどうしたらいいとか、そういうところまで道順をつけてやれるとよりキャリア教育というのはレベルもアップするし、子どもたち自身も身につけることだと思います。それにはやはり地域の方々、地域コーディネーターの活用ということもありますけれども、なかなか今どういうキャリア教育を実践しているのかというのも一般市民の方に、いろいろの媒体の中で、また先日も放送がありましたけれども、佐渡テレビの中で佐渡市が出している、教育委員会でこういうような体験型の授業をやっている、この成果はどうだったかということの広報がありました。本当になかなか文字だけでは、それから実践の報告をインターネットに載せるだけでは身につかない。やっぱり市民の方にも理解をしていただかなければというところもあると思います。映像による訴え、それから文字とか、その他いろいろのこういう文書の中で皆さんに知らせるということも本当に大事だと思います。</li> <li>・ それで、また次の段階に進むのもあるのですが、図書館を活用することでも大事じゃないかなという思いがいたします。そういう中で社会教育課がやっていること、教育委員会の学校教育課がやっていること、それをやっぱり相互連動したり、連携したり、情報をお互いに交換したり、その中で進んでいくものだというふうに考えております。ぜひキャリア教育、それからこれに携わる人々の支援もお願いしたいですし、またこれに、すぐに成果が出てくるものではないですけども、支援として図書館の充実であったり、そこに携わる職員であったり、図書館司書の方々の配置であったり、それをどう生かしていくか。やはり地域の方とも一緒に連携しながら、少ない職員、人数の中で効率よくするにはやっぱり情報をどんどん、今抱えている問題は何かというようなこともどんどん発信して、それに対してただ発信だけじゃなくて、市民の方々からどのような反応があるのか、どのような意見があるのか、それをまた上手に吸い上げていって、それを現場に生かしていただければいいなという思いがいたします。市長もそういったことをどのように考えますか。聞きたいと思えます。</li> </ul>
---------------	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 濱田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、学校教育、社会教育も絡んで出てきましたが、何か今の意見に対しありますか。</li> <li>・ 3点あります。1点目ですが、先ほどから言っている発信すること、見える化というのは大事なのだなと思いました。今回の両津中学校を中心にいろいろテレビの方で流させていただきました。そして、またあれよかったですよということで、今言ったとおり、先ほどご指摘いただいたとおり言葉だけじゃなくて、やっぱり映像でということが大事なんだということがわかりました。</li> <li>・ 2点目は、体験とか、こういう授業を仕組んだとかというだけじゃなくて、何を身につけさせたいのかという、子どもに身につける力ということもちゃんと明確にして、市民にも訴えていかなければということを考えてました。</li> <li>・ 3点目ですが、連携ということで市民の皆さん、地域の皆様にも連携を呼びかけていく必要があると同時に、先ほど社会教育課とも連携ということで、社会教育課とも連携してあのような形ができたのです。今回、実はすみません。説明不足で。それをつけ加えさせていただきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡辺社会教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館につきましては、やはりどうしてもやや受け身になるところはございます。そういう部分でもやはり郷土のことを知ってもらうような書類を置くというのは最低限必要ですし、それに向けてはかなり意識をもって取り組んでいるところです。ただ、中学生とか高校生になると、そういうことじゃなくて、今現状としては静かで落ちついて勉強できるから、自分で道具持って行って勉強に行くとか、そういう方も、お子さんも多々いらっしゃいますので、やっぱり広く活用できるように図書館の場合はその環境整備を進めていくということが我々として必要なんじゃないかと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信田さんから振られたましたが、例えば今連携をとり合うということだと、先月もある地域というか、ある意見交換の会とかに出させていただいたときに言われたのですが、こういう声が実際そこへ行ってみたらやっぱりありましたという声で、廃校になった小学校、中学校の中の図書館の蔵書がそのままになっている。眠ったままになっている。そのところを例えばそれを学校の蔵書であっても、逆に社会教育とか一般の方にもっともっと活用できないかとか、そういうことをもっとやってもらえないのかなというお話、意見がありました。その辺ももうちょっと全部眠っているというところを把握していなくて、申し訳なかったのですが、そこでちょっと図書館長とかとも話をすると、要するに蔵書の購入した所有管理権というのがあって、その自由な行き来は非常にやりづらい環境にあるというふうに言われたんですけど、じゃ眠らせておくのという話とまた違うと思うので、そういうところが教育委員会の中で両方の課が連動して、少しでも眠っている蔵書をなくすということをもっともっとまだやる、幾つかまだ本当に眠っているらしいので、そこはちょっとこれからの課題でやってほしいというのを最近本当に聞きました。たまたまその数日後にあるテレビ番組を見ていて、ダイ</li> </ul>

<p>・ 山田学校教育課長</p>	<p>ナミックラボという活動がある地域でやっていて、既にあるものをそのあたりのもので活かそうというのをキャッチフレーズにしている、今度はその地域の女性グループが、図書館愛好者なんでしょうけど、学校で眠っている、廃校になった校舎に眠っていた蔵書を教育委員会と話しして、廃校になった校舎の中の1つの教室を自分らでちょっとリノベーションして、その蔵書を並べて図書館カフェつくったんです。そういうような部分とかも含めて、学校の中、図書館の中というのにこだわらずに、せっかくある蔵書をもっともっと日の目を見せる連携というのも必要なのかなというのは最近思ったので、すみません。たまたま聞いたので、言わせていただきました。</p>
<p>・ 三浦市長</p>	<p>・ 今のお話、実は私も図書館長からその会終わった後にお聞きしまして、確認させていただきました。現在統合になって使われていない学校にあった図書の中で、学校で使えるものについては確実に統合校に持って行って、当然ですが、活用しています。ただ、傷みがすごくて、ちょっとこれはもうというものはそのままにしてあるということです。ただ、実際私も現場に行って見ていないので、この後確認をさせていただいて、少しでも今のような形で活用できる場所があれば、それはそれで本というのは意外と長もちしますので、子どもにはちょっともたせられないけども、市民だったら大丈夫なものももしかするとあるかもしれませんので、この後ちょっと確認をして、有効活用考えていきたいと思っています。</p>
<p>・ 中村委員</p>	<p>・ 図書館の話行っちゃって申し訳ないですけど、幸い土日祝日営業を始めたなら各地域、地域で図書館をサポートするボランティア団体とかが幾つもできてきています。そういう人らが出てきているので、今課長が言ったような部分も、ちょっと壊れかけているというか、落丁とかしかけているものも、その人達は喜んで装丁し直しとかを手伝ってくれるんじゃないかとも思うので。すみません。余計なことかもしれない。</p> <p>・ あと、2番について何かございますか。</p> <p>・ では、今ほどのキャリア教育なのですが、信田委員もおっしゃれましたが、佐渡にある職場で実際に子どもたちは仕事の内容、社会のルールを学んでいきます。先日開成中学等の入学試験と合格発表がありまして、その際のインタビューで小学6年生の子がそこに入って何がしたいか、何を目的にそこに入るのかと聞かれたときに、6年生の子どもが研究がしたいとか、宇宙開発に携わることがしたいとか。きっと佐渡の子は、そういう世界があることを知らないのではないかなというふうに思います。ですので、佐渡にある職業の中でももっともっと枠を広げて、NASAの部品をつくっていたり、佐渡から全国、世界に発信しているものもあるので、佐渡という中にとらわれず、もっともっと外を見られる子どもたちに育てほしいなど。外に羽ばたくということがやはり施策7にもあるのですが、世界に羽ばたく人材をというところで、じゃ何から情報を得るかとなるとやはりICTの活用が必要になってくると思います。それを通して島外にある学校、島外のいる人たちと交流をしたり、外の世界をもっともっと見られるようになると思うの</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 山田学校教育課長</li> </ul>	<p>で、来年度の目標値にもありますけど、できるだけ早くその辺の整備をしていただきたいなと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濱田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その辺についてはいかがですか。</li> <li>・ ICTにつきましては、整備計画を一応立てさせていただきまして、予算計上もさせていただいております。先ほど管理主事から話したような学校で、来年、再来年、2カ年かけて、ICTの環境がないという学校はこれでゼロになるという予定です。問題はそこから先、どうそれをさらに有効活用するか、あるいは増やすのだったら何が一番必要なのか、このあたりはそれこそ学校の研修、我々も大いに関わりながら、ニーズの高いものをしっかり入れていくというところをしっかりとやっていかなきゃいけないかなというふうに思っています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほど委員さんからご指摘もありました佐渡だけのことではなくて、世界を見据えるということで、そういう世界につながっている職業もあるんですよということももちろんですが、ICTを活用しまして、佐渡でもできる、あるいは佐渡から発信できると、そういった力も身につけていきたいというふうに考えて、今このキャリア教育に取り組んでいるところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 賛成意見です。今、中村委員の言われたことに大賛成です。我々がキャリア教育の中の中核と位置づけている佐渡学というのは余り狭く郷土学習というイメージで捉え過ぎない方がいいだろう。佐渡をフィールドとしたさまざまな体験を外に広げていく、学習意欲につなげるという意味でICT教育とも関連させて広げていくといい。佐渡学というと、将来佐渡に住まわせたいとか、戻ってこさせたいとか、そういう大人の都合で物考え過ぎるところがある。教育は、そういう視点ではなくて、しっかりと体験を通して意欲をもたせ、学力を向上させ、自己実現を果たさせるという視点で考えていくべきだろう。ICTを活用して探求心をもたせてもらいたいし、日本国内や海外の同世代の人間と交流することも目指してもらいたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこで話をしようかと思いつきながらここにきたのですが、実は今人材育成という話もありましたので、絡めて。平成32年、33年、34年と小中高学習指導要領全面実施と、こういうことで移行に今入っているわけでありまして。学習指導要領の改訂というのは約10年に1度、世の中の動きを見ながらつくられているわけですが、今回のもので私は今までになかった言葉がある。それは、我が国は著しい世界からの挑戦を受けてくるだろうと。これからの子どもたち、これから生まれてくる子どもたちは、世界からの挑戦を日本が受けてくる。その中で生活していくのだと。それと、もう一つはAI、これが学習指導要領にも載ってきております。AIがもう発達して、今もどんどん進んでいるのはよくわかります。そういう中で決して学力、知識習得、学力については、あとは機械にということではなくて、逆にしっかりと知識を身につけて、そしてそれを分析し、目的をもった分析、そしてそれを活用する活用力、こういうものが子どもたちに求められていくのだと。そうでないと、人間に敗者、勝者はありませんが、国は敗者になるな、こういうふうに</li> </ul>

私は受けとめています。子どもたちも豊かな気持ちで生活はできないだろうと、こう思うものですから。そういう中でこれまでのことも振り返ってみたときに、平成の半ばぐらいまではよく島外へ出ますと、佐渡の人間だと言うと、佐渡は教育の島だから、さすがだなとか、いいことだと。教育の島だからとか言ってくれまして、非常にうれしかったし、誇りに思っています。最近聞くことは皆無であります。教育の島、観光の島とか、金山、世界遺産を目指す島とか、こういうのは非常に聞かれるんです。そういう中でどういう時代の流れかなと、こう思ったときに、前半は10カ市町村があって、ある意味ではその地域をしっかりと見て、その中でその地域を支えていく子どもたちの理想像をもって、具体的な働きかけが学校にも、また教育行政にもあったのだがなど。そして、それに応じた予算措置もあったなど。これやるから、頑張れと。特にコンピューターが入ってくる時代でした。平成元年から佐渡の学校へ配置されましたから、市町村によって若干の差が出ている。当然だと思います。いずれにしてもいい意味でのライバル意識があったなど、こういうふうに思います。それが子どもたちにもある意味で伝わっていた。学校現場の先生方にも伝わっていたし、また子どもたちにも各家庭等、地域等を通じて伝わっていたなというふうに思い起こされます。そういった中で教育行政に向ける予算とか、そういうものがずっと割合としてどうなのだろう、最近はどうなんだろうと。コンピューターとかハード面は、これは当然不易のものはないわけですから、当然リニューアルしなきゃいけません。そのソフトとか、そして人材育成にどれだけお金がかけているのかなと。何か漠然とした言い方で恐縮ですが、そういった意味で市長にお聞きしたいのですが、現在の佐渡における教育予算、人材育成からの面で、文化、伝統という点ではかなりのお金がかかっていると思います。ただ、教育というものに対してハード面はある程度考慮していただいて、人材育成とか、今ほどICTの話がありましたが、これからソフトを充実させていかなきゃいけない、人を育てなきゃいけない、こう思うのですが、そのあたり教えていただければありがたいのですが。

・ 三浦市長

・ 地方公共団体は、地方自治体は、年度を経るごとに財政的に厳しくなっていて、これは、今後もずっと続くと思います。人口減少で税収も減っているのもある。日本全体ですから。しかし、この後にも出てくる、基本目標の6にも出てきます、さっき説明がありました、地域コーディネーターとかコミュニティースクールの部分というのは、ここへ来てかなり促進方向にさせていただいている。目標値もかなり違ってきていると思っております。ただ、その辺のところを含めても、要するにハードを導入しても、ソフトがなければハードは役に立たないというのは当たり前で、AIがどんどん進化したところで、AIに対して入れてあげる情報は人間が入れなきゃAIは何もできないわけですから、その辺のところの重要さというのは、これから上げていかなければならないし、そこが本当の教育部分だと思います。学力じゃなくて、人間そのものの要するにキャリアを積んで、人生をしっかり歩いていく

<p>・ 仲川委員</p>	<p>教育だと思えます。そのところについては、ソフト部分で言うと財源的にも投入しなければならないものがあると思えますし、お金ではないソフトの開発という部分もあると思っていますので、そのところはこれからはこれまで以上に教育委員会、学校教育、社会教育も含めて知恵の出し比への時代なのかなというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それと、もう一つ、先ほど来、佐藤さんのお話とちょっとずれるかもしれませんが、この項目の中で言わせていただくともう一回ちょっと、自分がちょっと間違えている可能性もあるのですが、もう一回佐渡学とはともう一回整理した方がいいのかなと誤ってしまっているところがあります。便利な言葉なので、例えば教育委員会の中で佐渡学センターという部門をつくっていると。でも、ここは基本的には学芸員の調査なのです。学校でいう佐渡学ってまた違います。ほか、では学校でいう佐渡学も今大体ここにも書いてあるように郷土学習となっていますが、郷土学習の中にそれこそ地場の農業、林業含めた地場産業の歴史的背景から何かととか、一つ一つの文化的なものストーリーについては皆さん教えていると思うのですが、この島の生活全体の佐渡学のはずなんで、ところがどうしても佐渡学と例えばジオパークと農業遺産とか、みんな別扱いになっちゃっている傾向が最近出てきているのもありますので、本当は例えば子どもたちに対して施す佐渡学というものは、どういうアプローチの仕方ですらという目的をもってやるべきものなのかというのは一回交通整理するタイミングでもあるのかなと。恐らく佐渡、大人も子どももいいますと、多分私なんかは把握し切れていないのもあるかもしれませんが、多分、佐渡島民に聞くと、佐渡学とはと聞くと、何十種類も言い方が返ってくると思うのです。だから、そのところの根っこの部分はしっかりもう一回整理して、佐渡学とはこういうことを定義しているものなのだというものが、常に繰り返し繰り返し意識され、そこがその場、その場で枝葉の方に行かないようにすることも必要なのかなというのも思っています。すみません。答えになっていないかもしれませんが。</li> <li>・ 他に、何かございますか。</li> <li>・ なければ次の3番、安全、安心な学校づくりの方に行かせていただきたいと思えます。委員のご意見をお願いします。</li> <li>・ 基本目標3施策9のいじめと不登校ですが、どの教育現場も明確な回答をもっていない、なかなか難しい問題だろうと思えます。このいじめについては、いじめに関する事件が契機になって、道徳が特別教科になったという背景があります。いじめだけをどうするかと考えるのではなく、教科としての道徳をいじめ根絶に有効な形になるようにつくり上げてもらいたい。始まったばかりですので、研究のさなかであろうと思えますが、道徳の授業を活用して、いじめ問題の解消に向かうように教育委員会事務局にまずお願いします。</li> <li>・ 不登校については、どなたに聞いても特効薬はありません。全体をカバーできるような特効薬はないのです。一人一人の状況が違う。理由もよくわ</li> </ul>
---------------	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 濱田管理主事</li> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<p>からないという場合もある。では対応策は何かというと、個別対応しかない。個別対応には人的資源を投入する以外にない。佐渡市としても十分な個別対応ができるように予算措置や人材確保等に向けて努力をしてもらいたい。現在有能な人材が少ないということであれば、どう養成して配置するかも考えながら動いていただきたい。この数値を改善するのは本当に大変なことだと思います。よろしくお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その辺の対応業務の負担度合い等について、現状をもう少し詳しく説明できますか。不登校関係についてお願いします。</li> <li>・ そうしましたら2つお話があります。1つ目は、人的な中身ということで、ハードといいますか、そういった件で県からも正規の教員以外ということで加配もつけていただいているのですが、その人数も残念ながらやっぱり限られているという形でございます。ぜひとも人的なものについてはまたお願いしていく形でございます。</li> <li>・ 2つ目ですが、今度我々教員側の資質、能力を高めていくということも、ソフト面といいますか、先ほどご指摘がありました。その点についてもこれだけいろいろな環境が変わっているわけです。子どもも変わって、保護者も変わって、世の中も変わっているの、それに対して教員、関わる人がやはり引き出しを多くもっていかなきゃだめなのです。昔の頭で接したりとかして、あるいは決めつけたりとかいろいろしていますが、いろいろな引き出しを多くもてるような形で、じゃそれに対してどうするかということで私たち学校教育課としましてはそういう研修会を企画、運営していくという形、それは大学の先生と協力しながらということで、どういった方法があるのかということ、あるいはどういう接し方があるのかということ、そういったことをいろいろやっていかなければならない。ケース・バイ・ケースであります。こちら引き出しをたくさんもたなきゃいけないということでございます。</li> <li>・ 不登校問題は、本当に大きな問題であります。何か杓子定規な言い出しで恐縮なのですが、学習指導要領でもう一つ付加されたものがあります。それは、知識、理解とか、そういった従来のものに、改めて人間性の涵養ということ。涵養ですから、水がしみ込むように徐々に、要するに道徳的な環境を整える。そういう点で今の佐渡はこれでいいのだろうか日常生活で思っていますし、また地域の人と話をしながらでしたり、そういう中で感じるわけです。学校には道徳授業の充実、そしてちょっと最近気になるのが特別活動というものの充実というのがちょっと少ない。特別活動こそ集団や社会の形成者を育成するために、集団活動を通してそれをつけていくというのが、これはもう何十年、戦後がスタートしてからずっと一貫して掲げられているものですが、これが少し強調されないで、新しい言葉に振り回される部分がある。そういった意味で不登校というのは、集団や社会の形成者を育成する、集団活動を通してという点においては、それを育成する立場にある者にとって、不登校に対して本当に真剣に取り組まなければ、それは</li> </ul>
--	--

<p>・ 三浦市長</p>	<p>権利、義務の放棄だろうと、こういうふうに、ちょっと乱暴な言い方ですが、感じています。そういう意味で学校では道徳教育の充実と、それから特別活動の充実であります。</p> <p>・ そして、もう一つ、社会教育で、私は佐渡ならではの取組、知識や技能的なものは結構あるなど。いろいろ回覧板とか広報を通していっぱいあるなど、こう思っています。ただ、今まで、例えば会津藩の会津若松では今でも10のおきてを朝みんなで唱えているところもあるようですし、それからいっとき前ですが、新発田市では論語とか古典文学のそういう道徳的な要素を含んでいるようなものをみんなでまとめて、それを学校現場に配ったり、また家庭に啓発していく。こういうふうに、日ごろからいろいろな人と接しながら、私自身も自責の念をもって申し上げるんですが、自分の前に姿見を置いて同じことを話し、そして立ち振る舞ったときどんな気持ちをもつのだろうということを本当に考えているのだろうかと思うような言動やそういったものが見られます。また場合によっては佐渡テレビにも流れます。NHKにも流れます。あれは、それこそ、ぼけっと生きているんじゃないというのは5歳、あれは5歳の子どもが言っても多少は笑って許せるけども、10歳の子が、もちろん冗談でも大人が言うようなことはあってはならない。こういうふうには思っています。そういう意味でやはりそういった不易な部分というものをもう一度確認し合うような社会教育の場面があったらいいなというか、いわゆるマナー、おもてなしではないですが、やはり観光の島とうたっている限りはやはり佐渡へ来るとやっぱり人が違うわい、感じがよかったと言ってもらえるような、何かそういう取組ができれば。結構新潟の場合ホテルの何とかなのマナーとか、そういうのも結構あるようですので、ひとつお願いしたいなと思います。</p> <p>・ 今日藤井聡太7段、今日挑戦、記録に向けておりますが、ちょっと朝のニュースで見たらちゃんと席に着くと扇子を将棋盤の前に置きます。相手も置いています。たとえ勝負であっても、相手と自分の間に一線を引く。落語の世界もそうでありますし、それからもちろん京都祇園の舞子さんなども扇子を置くのは相手と自分には必ず一線あるんですよということを教えられたというのを聞きますが、藤井聡太もきちんとそういうところは、やっぱり勝負をかける人間は違うわなと、こういうふうには思った次第です。</p> <p>・ ありがとうございます。先ほどより、明快な回答はない世界なんで、次回とかで材料がもしあったとすれば私も含めて知りたいなと思うのが、この十何%、64名中9名登校できた。例えばどういう流れで不登校になって、どういうことがきっかけで復帰できたのかというのが、例としてあったら知りたいなというのが個人的に思います。あとは、そういうヒントを他の不登校に対応している先生方とかも情報共有ができていのかというところは聞きたいんですけど、よろしくお願いします。</p> <p>・ すみません。あと、時間が押しているので、基本目標4と6、一緒によろしいですか。高等教育研究機関との連携、あとは家庭教育。基本的には子</p>
---------------	---

<p>・ 信田委員</p>	<p>どもたちと外との連携の話になりますが、あわせてどちらでもご意見があればよろしく申し上げます。よろしいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、すみませんが、学校教育の方はここまでにさせていただいて、社会教育全般でどの項目でも構いませんので、よろしく申し上げます。</li> <li>・ 先ほどの話の中で私が図書館の役割であるとか、それからこれから果たすべき今後の期待も少しお話をさせていただきましたけど、やはり市民の立場としては行きやすい図書館、図書室であってほしいと思います。三浦市長がおっしゃいましたように土日の営業をする。それから市民ボランティアの活用をしてというようなことも聞きました。それがまだまだ地域によって差があります。図書館そのものの蔵書の数ばかりではなく、内容、それからどんな雰囲気になっているのか、この辺も各旧町村の取組がそのまま残っていると、行きたくないような図書館も、中にはあるんで、やはり、私は図書館というのは、せっかく予算を入れてくださって、新しい蔵書なり、今回また両津でも新しい図書館というものができました。それを活用するというのは、入りやすくないとできないと思うんです。図書館は、専門家がより勉強を、学問を深めるために、静かに行って学ぶところも必要、そういう機能も大事なんですけど、きっかけは、図書館に行って、みんながちょっとざわざわとするかもしれないけれども、1つの本を子どもとお母さんがとり合って、また仲間のお母さんたちと一緒に話をするとか、この本よかったよとか、これどうだよねというような、そういう場であってほしいと思うのです。島内にはたくさんの図書館、図書室が各町村の施設に入っていますが、中央図書館はどうなのか。それから、各地域にやっぱり根差している、より住民の皆さんが行きやすい、その地域の図書室を活用していただける。限られた人材であったり、予算の中で、どのように図書館、図書室を運営していくかというのをやっぱり佐渡市がお金を出せばいいということじゃなく、もっともっと図書館から、先ほどもお話ししましたように発信をしていく。そして、市民からも反応をいただく。そういう交流の場であったりとか、そういう役割を果たしていかないと、高齢化は進む。お年寄りが出かけられない。子どもたちはいない。そんな中でだめだ、だめだじゃなくて、実際に通いやすい行きやすい体制が、本当に必要なんじゃないかなという思いがあります。また、実際に図書館カフェであるとか、そういうような運営も民間の有志の皆さんたちでやってみるところもあります。ぜひそういう活動がしやすいような支援を佐渡市の方からもお願いをしたいなと思うし、そのことが社会教育全体にもつながっていく。地域の活性化であるとか、本当に学校の現場に向かって不登校の子どもたちのそこが、図書室が行き場所であったり、そこでまた司書の方とか相談してくれる方がいると、学校ではない場所だけ行きやすい、行ってまた自分が楽しくなって、また次につなげられるような図書館のあり方、それから図書館の運営の仕方、そういうものを整えていっていただきたいなという思いがいたします。よろしく申し上げます。</li> </ul>
<p>・ 三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。2年ぐらい前か、畑野の図書室が狭過ぎる、あ</li> </ul>

の裏側をもう少しスペースがあると。今、倉庫みたいになっているのか。そこも含めて何か利用、活用できるんじゃないかという話が出た後、結局そのままになっているみたいなんですが、今度教育委員会が引っ越し、畑野の行政サービスセンターをまた組み直す中で、土日営業とか始めたら、佐渡で一番人がふえた。パーセンテージ的に。そういうところもあるので、前は本当に佐渡で一番評判が悪い、人が来ない幽霊屋敷と言われていたらしいんですけど、そこが今は、人が来るようになったけど、図書室環境は変わっていない。その辺のところも今後検討課題にしてあげてほしいと思います。あとこれは連動するのだろうなと思ったのが、この間もちょっと図書館長さんから話しして聞いていたのが、図書室の中では羽茂が一番昔から評判がよかったのは聞いているのですが、土日祝日営業になって、羽茂が意外に増えていないのです。その理由が、それが全てかどうかわからないのですが、一、二年前までは羽茂は学童保育の場所と図書館の場所が同じ建物の中だったと。それが今は近場だけど、学童保育と図書館の建物が分かれた。この影響があるんじゃないかという分析の仕方もありますので、その辺のところやっぱり図書館になじむところは、その辺の環境の検討もあると思いますので、常にお客様の利用度を意識しながら、伸び悩んでいるところ、増えているところの比較とかは常にやってあげてほしいなというのがあります。

・ 仲川委員

- ・ 社会教育課のジオパーク事業について、講演会、シンポジウムの中の出前授業では未実施の学校もあり、全島的な取組とするために積極的に働きかけていく必要があると書いてあります。学校がこれを取り入れられないことに何か原因があるのではないかという見方を是非してもらいたい。学校は年度当初に年間のシラバスをつくっているのですが、その中には後になってそう簡単には入れられない。ジオパークや世界遺産については特に、授業の中に上手に取り込んで職員を派遣できるような形を整えてもらいたい。例えば小学校の生活科、あるいは社会科、理科、あるいは中学校の英語の中に取り込む。その先は高校でもカリキュラムやシラバスの中でどうやって社会教育課の事業が融合できるのか。丸々1時間もらうとか、講演会で数時間もらうという発想ではなくて、授業の中にどうやって入り込めるかという手法をぜひ考えて、全校に行きやすいようにする。せっかく社会教育課の隣には学校教育課があるので、研究をしていただきたいと思います。
- ・ それから、博物館事業についてですが、縄文の特別展と書いてありますが、もう一遍、博物館そのものを見直していただきたい。特別展が全てじゃないということなんです。常設展、特に庭を見てください。弥生の高床式倉庫は、屋根が崩れそうになっています。茅葺きの施設が崩れそうになっています。非常に危うい状況です。古民家も立入禁止になっています。ああいう価値のあるものをまずどうやって整備をして、小学生、中学生を連れて行って勉強させることができるか、私はそちらの方が大事だと思っています。必要な予算をつぎ込んで教材として役に立つようにしていただきたいと思います。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。これについては社会教育課と私らの方でやりとりもさせてもらっていて、佐渡博物館に限らず、ほかの郷土博物館、港の博物館も全く展示内容、テーマ設定も交通整理できていない。旧市町村時代のまま、それぞれのものがそのままほっぽらかされている感があるので、そこは渡辺課長にも去年からお願いしているんですけど、もう一回佐渡の全ての博物館をしっかり役割、テーマを明確につくり直そうということで今やっていただいている、そのトータルの役割分担、博物館の設置のテーマ設定、どの収蔵物をどの博物館にしっかりテーマ別に合わせて置くか、展示するか。これは、農具であったり、漁具であったりも含めて、その辺も含めて今交通整理作業をやってもらっているんで、それを踏まえて優先順位をつけて手当てをしていきたいと思っていますので、もう少々時間をください。よろしくをお願いします。</li> <li>・ 他にございますか。</li> <li>・ 次に、部活動のあり方の方に入らせていただきたいと思います。説明の方よろしくをお願いします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濱田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、佐渡市部活動のあり方に係る方針概要版というのが一番わかりやすいので、A 4 裏表のものをご覧ください。この方針ですが、中学校の学校教育の部活動に関する方針であります。中学校の部活動でございますが、我が国のスポーツ振興を大きく支えてきました。しかし、その部活動を学校や教師だけで担うのは難しくなってきました。そこに課題、特に3つ書かせていただきました。生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、基本方針として生徒にとっても、教員にとっても魅力ある部活動の実現が必要となります。</li> <li>・ 本方針の作成の過程については、スポーツ庁が平成30年3月に出したガイドライン、それから新潟県が30年5月に出した方針に従い作成しました。もちろん中学校長会、あるいは中学校体育連盟と話し合うと同時に、小学校を含めた市内教員全員から意見を集めて話し合ってきました。それをもとにこの方針案を作成し、定例の教育委員会で勉強会を2回行った後、今年の10月、定例の教育委員会で承認されました。</li> <li>・ 方針の内容についてですが、真ん中、ポイント1、ポイント2、ポイント3とありますが、休養日、練習時間等は先ほど見ましたスポーツ庁や新潟県の方針と同じですが、佐渡市特有というものが2つあります。ポイント1のところの星印になります。1つ目、原則第3日曜日、家庭の日を佐渡統一の休養日に設定すること、2つ目、朝練習は原則行わないようにすることということでございます。この方針を作成した後ですが、佐渡市内の中学校の部活動の現状ですが、多くの中学校の休養日が週2日となっています。ポイント3にあります。外部の連携ということで、部活動指導員のことで、現在各学校に募集中でございます。部活動指導員の予算については国が3分の1、県が3分の1、市が3分の1になりますが、現在、県の予算がどのくらいになるかは、まだ発表されておりません。なお、新聞報道等によります</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<p>と国の方針の休養日などの時間を守らない市町村へは国の方はお金を出さないと言っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本方針でございますが、先ほどの議題1でも指摘されましたが、学校だけでなく、それぞれ家庭、あるいはスポーツに関する団体に発信していくことが大事と考えまして、別紙にあります。保護者の皆様へ、スポーツ関係団体の皆様へというA4の紙があります。それとこの概要版を添えて、中学校だけではなく、小学校の保護者にも、あるいはスポーツ関係団体の方にもこの資料を配付させていただきました。実は平成9年にも同じことが国の方から出されたのですが、残念ながら浸透されませんでした。そういったことも踏まえ、今回このような形で資料をもとに啓発をしていったところでございます。</li> <li>・ 最後になりますが、今後ですが、中学校の部活動以外の時間にも練習して、さらに資質、能力を伸ばしたいという子どもたちもいます。その子どもたちのためにもぜひともその受け皿となるスポーツ協会、あるいは社会教育課などと連携していきたいと思っております。3月に行われますスポーツ協会の理事会でもぜひとも説明の場を与えていただきたいという形で今進んでいるところでございます。</li> <li>・ ありがとうございます。</li> <li>・ これについてご意見等ございましたらよろしくお願ひします。</li> <li>・ 部活動のあり方ということで、今ご説明いただきました。これは、どちらかという教職員の働き方改革ということで今日のレジュメにも書いてありますし、趣旨は十分わかっているつもりです。それと同時に、改めて方針が出たということで、スポーツ活動、体育活動の一層の充実ということを期待しております。そういう意味で、1つ目の働き方改革、この方向性には十分わかりますが、内容そのものは先ほどの説明にありましたように、ほとんどの佐渡市の学校では現状を踏まえたものであって、いい確認の機会かなというふうに捉えております。一方、スポーツ活動の一層の充実、発展にもつなげていただきたいと思いますところですが、今年度の離島甲子園にしても、バドミントンや駅伝への指導等、非常に島民にとってはうれしい成果を上げていただいております、各関係者のご尽力に感謝したいところです。</li> <li>・ そういう中で部活動については中体連、今年で70年、後日、記念式典を予定しておりますが、戦後の混乱期にあつて、子どもたちの健全な育成、心身ともに健康な子どもの育成を目指して設立されて、児童の減少、それから大会規模の縮小、部活動が減少していく。こういう中においても組織力、企画力、行動力をもって一生懸命それを支えて、各小学校も中学校も高校もそれぞれの体育連盟は頑張ってくれていたんだなと。また、これからも頑張りたいなと、そういう後押しの意味をもってお願いしたいところですが、幸い市の陸上競技場、それからサンテラ佐渡スーパーアリーナ、続いて立派なものを建設していただきました。このときにも中体連初めその関係者は、佐渡から代表として島外に出ていくんじゃなくて、もっとこれを機会</li> </ul>
--	--

	<p>に、陸上競技場ができた、あの真野のグラウンドを中核にし、佐渡の自然を活かし、例えば、駅伝の県大会は長岡ですとやっているわけですが、そういったものをもってこれないかと、十分に耐えられるコースを佐渡はもっていると島外の会議等に出たやに聞いております。しかし、バスケとか、バドとか、そういった1つの種目ならいいのだが、駅伝のように多くの選手、そして何といても応援の保護者がすごいので、そういったことに佐渡は耐えられるのか。また、何よりもお金がかかると。陸続きのところと違ってお金がかかるので、そういう予算が確保できないだろうということで実現に至っていないわけでありまして。そういうことで、非常に残念で、子どもたちに県内の頑張っている仲間の姿を佐渡にいて見せてやりたいと、そういうところもあったのですが、先ほどのことでできませんでした。今後とも大会、どういう指導者がそばにつこうとも、子どもたちのスポーツ活動を通しての越佐交流と、それから島内におけるスポーツ活動の環境整備、チームとチームが随分離れています。マイクロバスとか、そういった補助の充実等をぜひともお願いしたい。これが私は生涯スポーツ事業の充実、発展に必ずつながっていく。佐渡で生まれて育てよかったという子どもが一人でも多く育てほしいなど。部活動に関係することで申し上げました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他にございますか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤委員とは全く違う視点からお話しします。今回のこの部活動の方針については、あくまでも原点は教員の働き方改革です。その視点をぜひ失わないで、これをまずやりきって、反省点はまた次年度でも挙げてもらいたい。プランができたところですから、しっかりドゥーとチェックにつながるようにやってもらいたい。教員の部活動を含む超過勤務については、昭和41年に文部省が調査したところ、中学校の教員の平均の超勤は週2時間半でした。それをもとに勤務時間が長い場合は包括的に評価するというので、教員調整額として俸給の一律4%をつけるということで、昭和の半ばにやっと給特法ができて動き出した。もう40年以上前のことです。</li> <li>・ ところで、現在の教員はどれだけ超勤しているか。今日いただいた資料では週60時間以上働いている中学校の教諭が74.1%。約75%です。そうすると、おおよその平均値を計算してみると1人当たり、週15時間程度超勤していることになる。昭和40年代とは大変な違いになる。6倍になっている。この状況をふまえて、まず、先生方の働き方について、この機会に改善していくという視点からご支援をよろしくお願いしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他にございますか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆さん、これまた1年間の数字を来年度に確認しながらということになると思いますが、またそのとき、これを踏まえてご意見いただければと思います。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とりあえず議題2つは終わりましたが、その他、事務局の方から何かあ</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山田学校教育課長</li> <li>・ 三浦市長</li>   <li>・ 山田学校教育課長</li> </ul>	<p>りましたらよろしくお願ひします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありません。</li>   <li>・ それでは、これで閉会とさせていただきます。また、次回等につきましては、改めてご連絡差し上げてお願ひすることになると思ひます。長時間ありがとうございました。</li> <li>・ 本日はご協議大変ありがとうございました。</li> <li>・ 以上をもちまして、平成 30 年度第 2 回佐渡市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。</li> </ul> <p style="text-align: right;">午後 5 時 00 分終了</p>
--	---